

赤十字奉仕団だより



赤十字の基本原則

第45号

人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性



写真 (左上) 珠洲市災害ボランティアセンター (右上) 青少年赤十字トレセン
(中央) ACTION! 無病息災プロジェクト 野菜づくり
(左下) 金沢百万石まつり (右下) 長坂台校下学童クラブ防災セミナー

珠洲市災害ボランティアセンターで活動して

赤十字災害ボランティアリーダー 北村 裕一

1日の活動を終え、「誰も怪我をせず、熱中症にもならず今日も終えられたな」とホッとする一方で、被災者の方は「もう地震は来ないで欲しい、また来るのではないか」という不安を抱えていることが良く分かるため、その不安に対しては、ボランティアとしてどこまで自分の活動がお役に立てるのかと考えていました。被災者の様々な想いや被災地の状況を聞き、考えるときには、赤十字と関わるきっかけとなった救急法の講習で、一番初めに学んだ「人道・公平・中立」の原則を現場で体現するよう心掛けており、人道という赤十字の理念を共有しながら、今後も支援の輪が広がっていくことを願っております。



災害ボランティアでの無線機の活用

石川県無線赤十字奉仕団 清水 梅子

令和5年奥能登地震の復旧作業のため、珠洲市災害ボランティア活動に参加しました。現場は想像以上に荒れていて震災の爪痕が生々しい様子で愕然としました。

活動内容は半壊した家の瓦礫撤去、片付け、分別、処理場への運搬です。何度か活動に参加し必要な道具を持参するようになりました。その中で何度も活躍したのが無線機です。特定省電力の無線機は誰でも使うことができ室内から野外への連絡や運搬の際の通信等で非常に役に立ちました。

ボランティア活動に参加し、出会い、学びなどがあり大変良い経験となりました。悲しみに暮れていた家主さんが、最後「ありがとう」としみじみと言ってくれた事が心に残っています。



津幡町災害ボランティアセンターで活動して

津幡町赤十字奉仕団 小林 良樹

7月12日、津幡町を豪雨が襲いました。私の自宅周辺もテレビでよく聞く「ここに半世紀住んでいるがこんなことは初めてだ」という状況になり、床上浸水、車の水没等がいたるところで発生しました。ボランティアセンターが立ち上がり応援に向かい、配送係、資材係、軽トラで荷物運びといろいろ実践をさせてもらいました。

ボランティア7人を乗せ、依頼先へ訪ねていくと依頼者が嬉しさのあまりいきなり涙目になったのが印象的でした。帰り際には手を合わせ、「ありがとうね」の言葉で送ってくれました。

津幡町奉仕団からは24日間、延べ43名が復旧活動に参加しました。今回の経験を活かしながら、今後も地域のために活動していきたいと思いました。



「赤十字のつどい」チャリティーバザーを開催して

金沢、能登、加賀の3地区で『赤十字のつどい』チャリティーバザーを開催
チャリティーバザーの収益金721,238円は令和5年5月能登地方地震災害義援金に充てられました。

・金沢市地区

6月4日(日) アルプラザ金沢店にて、金沢市地区赤十字奉仕団チャリティーバザーが開催されました。奉仕団に入団して1年目の私はなにもわからずに前日の搬入や陳列などの準備、当日はレジの補助をしました。お客様の中には、カゴいっぱい購入されたり、何度もレジに商品を持ってこられる方がいたり大盛況でした。「私たちはこんなことでしか被災地を応援できないから、ご苦労様!」と声を掛けていただきました。人を思いやる暖かな想いにふれることができた貴重な時間でした。

弥生校下赤十字奉仕団 森 博幸



・能登地区

6月9日(日) 内灘町文化会館にて14年ぶりに赤十字のつどいを開催することができました。地震で被災した珠洲市の奉仕団も含め10地区の奉仕団が集まりました。チャリティーバザーにはたくさんのお客様がいらっしゃいました。また、内灘中学校吹奏楽部による演奏や内灘高校の生徒による募金活動も行われました。

大勢の方々の協力があり無事に『赤十字のつどい』を終えられたことに感謝しつつ、「陰の力となり、より良い奉仕ができるよう尽くす。」という赤十字奉仕団員の信条に幸せを感じた1日でした。これからも信条を心の中に灯して活動したいと思っています。

内灘町赤十字奉仕団 亀田 武彦



・加賀地区

7月2日(日) 道の駅めぐみ白山を会場に、加賀地区赤十字奉仕団チャリティーバザーを行いました。

4年ぶりとなったバザーは不安と期待から始まりましたが、初めて開催場所を選んだ、めぐみ白山の駅長さん、職員のみなさんが献身的にご協力くださりスムーズに準備することができました。また、各奉仕団委員長の方々とも連絡を取り合い、チームワークを深めて当日を迎えることができました。

当日は、参加された皆さんが心地よい疲れで帰っていたらと願っていました。

ボランティアは、自分が楽しんでするのが一番だと思っています。一人ひとりの力は小さくても、一人ひとりが集まって大きな力を発揮できる奉仕団でありたいと思っています。

美川まつぼっくり赤十字奉仕団 新 千鶴子



青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター(トレセン)を開催して

青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 平田 和伸

今年のトレセンは、能登青少年交流の家で7月29日、30日の1泊2日の日程で実施することができました。内容も野外炊飯、国際理解親善(タイの文化)、健康安全プログラム(傷の手当等)、防災教育プログラム(段ボールベットを作ろう)など盛り沢山にできました。子どもたちは、グループ活動を通してリーダーシップやコミュニケーションについて学びを深めました。最初は緊張しているような子供たちもだんだんグループに打ち解けていく姿を見て、来年は以前のように2泊3日でできることを期待し、さらに学びを深めていきたいと思っています。



ACTION! 無病息災プロジェクト「赤十字奉仕団農園」での野菜づくり

昨年度から引き続き実施しているかほく市赤十字奉仕団では玉ねぎ、さつまいも、キャベツを栽培しています。玉ねぎは5月に約180キロを収穫し、能登地区『赤十字のつどい』チャリティーバザーにて販売しました。さつまいもは10月29日のかほく市生涯学習フェスティバルで販売する予定です。

また、今年度からは鶴来ふれあい赤十字奉仕団も遊休農地での野菜づくりを開始し、さつまいもの栽培を行っています。



あとかき

「令和5年奥能登地震」、「令和5年7月7日からの大雨災害」と県内で大きな災害が発生しました。奉仕団も被災地のためにお手伝いさせていただきました。被災地の少しでも早い復旧復興を願っています。

編集委員 寺本、村中、田中、小林、吉本

※日赤石川県支部のホームページからも奉仕団だよりを閲覧することができます。

